



巴工業株式会社

株主、投資家のみなさまへ

TOMOE REPORT Vol.37

第89期 決算のご報告

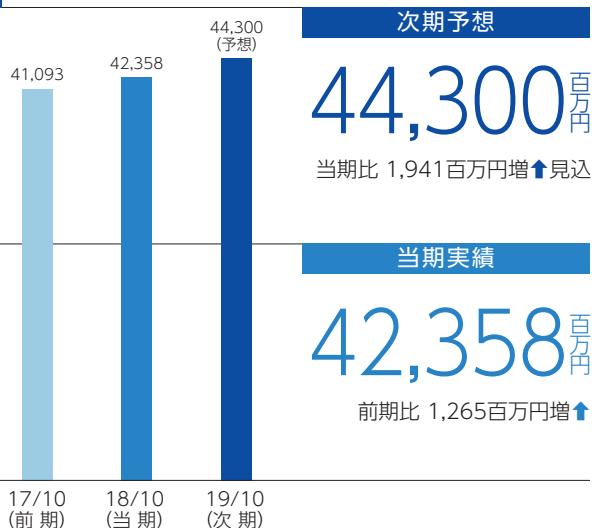
2017年11月1日 ▶ 2018年10月31日

CONTENTS

連結決算ハイライト	01
トップメッセージ	03
担当役員が語る	07
連結財務諸表	11
会社情報	13
株式情報	14

連結決算ハイライト

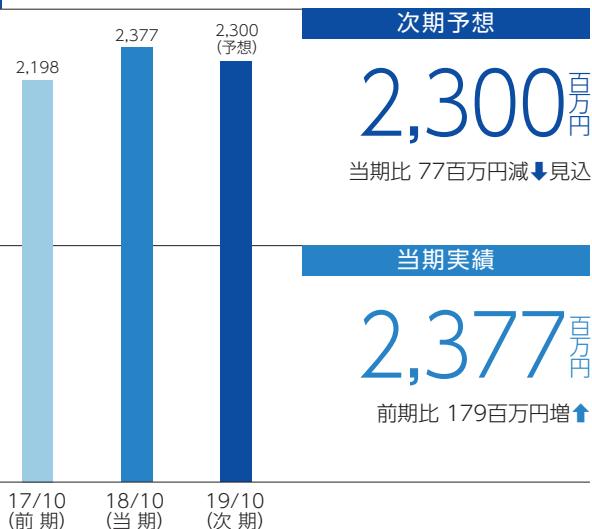
売上高 (単位: 百万円)



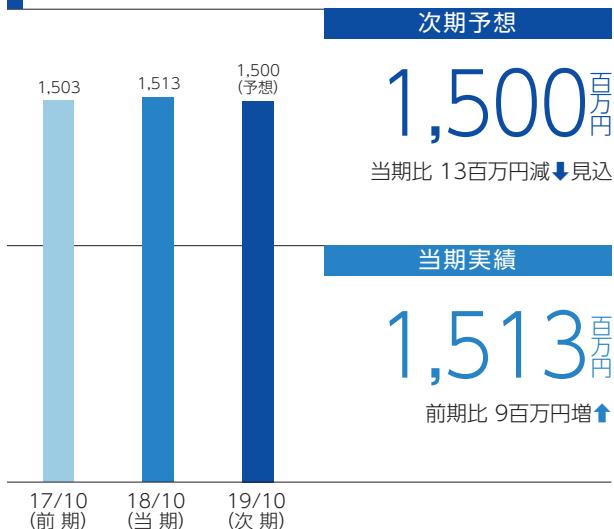
経常利益 (単位: 百万円)



営業利益 (単位: 百万円)



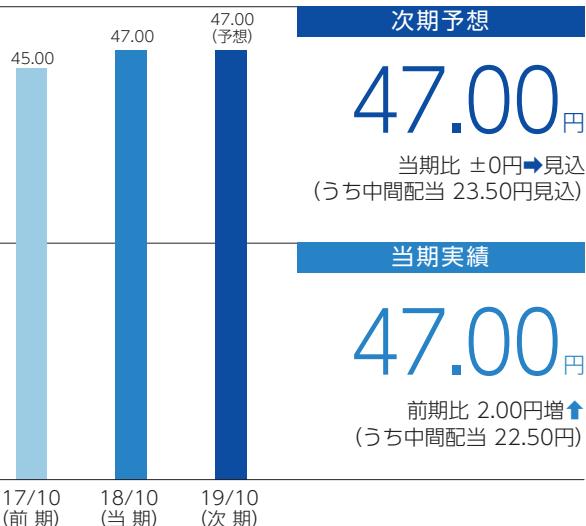
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



1株当たり当期純利益 (単位：円)



1株当たり配当金 (単位：円)



決算のポイント

売上高

機械事業、化学品事業ともに増収となったため、前期比3.1%増の423億58百万円となりました。
次期は、両事業ともに増収を予想しており、当期比4.6%増の443億円を見込んでおります。

営業利益

機械事業が増収に加え収益性向上により増益となり、化学品事業も収益性の高い分野の販売増により増益となったため、全体では前期比8.2%増の23億77百万円となりました。
次期は、機械事業、化学品事業ともに販管費の増加を主因に減益を余儀なくされるため、全体では当期比3.3%減の23億円を見込んでおります。

経常利益

営業外費用で為替差損が発生したため、前期比5.2%増の23億35百万円となりました。
次期は、営業外収益・費用を見込まないことから、当期比1.5%減の23億円を見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益

特別損失に連結子会社固定資産の減損損失を計上したことなどから、前期比0.7%増の15億13百万円となりました。
次期は、特別損益等の特殊要因を織り込まないため、当期比0.9%減の15億円を見込んでおります。

トップメッセージ

社長に聞く

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社2018年10月期（2017年11月1日から2018年10月31日まで）が終了いたしましたので、ここに決算と主要項目につきましてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **山本 仁**



Q 当期の事業環境と経営成績についてお聞かせください。

A 当期の国内景況は、自然災害の影響によって設備投資や輸出に一時的な減速傾向が見られたものの、おおむね緩やかな回復基調が続きました。海外では、米国経済が好調を維持している一方で、欧州や中国で景気の減速感が強まってきているようです。

このような環境の中、当社グループの機械事業は幅広い分野の販売が伸張した結果、売上高は前期比9.1%増となりました。営業利益についても、収益性の良い装置・工事や部品・修理が増収となったことを受け、

前期比12.4%増となりました。

化学品事業は、自動車や住宅・建設用途向けの工業材料の販売や海外販売の増加によって、売上高は前期比1.1%増となりました。営業利益は工業材料分野の増収や機能材料分野の収益性向上、連結子会社の好調などを受け、前期比6.8%増となりました。

以上の結果、当期の連結業績は、売上高が前期比3.1%増、営業利益が8.2%増となりました。経常利益は前期比5.2%増、親会社株主に帰属する当期純利益は0.7%増となりました。

Q 中期経営計画の進捗について お聞かせください。

A 現在当社が取り組んでいる3カ年の中期経営計画「Challenge For Change ～変革への挑戦～」は2年目を終え、最終年度を残すのみとなりました。この計画では、売上高や利益水準を大幅に伸ばすことよりも、次の時代に大きな飛躍を実現するための基盤づくりを重視しています。生産手法や営業スタイルなど、今までのビジネスのやり方を根本から見直し、大きな変革を起こすことにチャレンジしようという3年間です。

これまで構造改革への取り組みでは化学品事業が先行していた感がありましたが、機械事業でもいよいよ、大きな成果が上がりました。小型ながら高い遠心力を実現し、高効率な分離を実現する「ディスク型遠心分離機」の商品化です。主に食品・飲料市場向けの機械で、エキスの分離や動植物油の精製など、幅広い分野での利用が期待できます。これまでこのクラスの機械の国内市場は欧州メーカーが寡占していましたが、お客様の要望に迅速かつ柔軟に対応できる当社が参入したことは非常に好意的に受け止められており、すでに多くの商談が進んでいます。このほか、工場における生産プロセスの抜本的な改革に向けた取り組みも順調に進んでおり、近いうちにその成果が表れてくるものと期待しています。

化学品事業においても、昨年4月に新設した「開発部」が主体となって新たな商材開拓に取り組んでおり、自らの手で新たな商材を掘り起こし、それをお客様に

提案していくという「提案型ビジネス」が徐々に増えてきました。さらに、タイや香港の現地法人が順調に推移し、海外売上比率も年々向上しています。今後も主な顧客である日系企業の海外生産拠点が東南アジアからインド、東欧へと事業領域を拡大しているのに合わせて、当社グループの販売網もさらに充実させていきたいと考えています。

Q 次期の事業計画と業績見通しについて お聞かせください。

A 国内景況は設備投資や個人消費の堅調が続くことから緩やかな回復が継続すると見えています。海外では欧州やアジアの景気減退感が強まることを懸念しており、とくに米中貿易摩擦の激化など世界経済の下振れリスクに留意する必要があると思われます。

このような認識の下、次期の機械事業は国内民需向けの機械販売、アジアを中心とする海外への機械販売、部品・修理の販売がいずれも増加する見込みですが、販管費の増加を見込むことから増収減益となると予想しています。化学品事業についても同様に、国内合成樹脂分野の原料、工業材料分野の住宅・建設向け材料などの販売の伸びを見込んでおりますが、販管費の増加によって増収減益となる見通しです。具体的な取り組みとしては、機械事業では先ほどご紹介したディスク型遠心分離機の販売拡大、化学品事業では新規商材ビジネスの立ち上げなどに期待しています。

トップメッセージ



次期の連結業績については、売上高が当期比4.6%増、営業利益が3.3%減、経常利益が1.5%減、親会社株主に帰属する当期純利益が0.9%減と予想しています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けており、財務体質と経営基盤の強化のための内部留保の充実を図りつつ、連結業績や

中期経営計画 (2016年11月~2019年10月)

「Challenge For Change ~変革への挑戦~」

基本方針

当社グループを取り巻く経営環境が激しく変化中、これに対応し得る機動性や俊敏性を養い且つこれまで培ってきた経験や知識を最大限活かし新たな取り組みに積極的に挑戦し、さらに一層の収益基盤の強化と効率的経営の実践により持続的な企業価値創造を目指すことを基本方針とします。

業績計画

機械事業では、東南アジア市場や中国市場を中心とする海外市場への販売拡大と国内官需向け低動力型高効率遠心分離機の一層の拡販及び国内民需向け石油化学、排水他分野への販売強化を主な戦略とします。
化学品事業では、第87期に設立したタイ現地法人を軸に東南アジア市場を中心とする海外売上高の拡大及び既存事業の深耕拡大と付加価値の高い機能的商材や顧客の開拓による事業規模拡大を主な戦略とします。

重点施策

- ① グローバル化推進を継続
- ② 経営資源を有効活用し、事業の選択と集中を推進
- ③ 将来の成長に資する投資案件開拓
- ④ 経営基盤の強化
- ⑤ 収益向上により、資本効率や資産効率の改善
- ⑥ グローバル化に対応可能な人材及び将来経営を担う人材の育成強化

■ 数値目標 (単位:百万円)

	第90期計画		
	機械	化学品	合計
売上高	12,000	34,000	46,000
営業利益	600	1,400	2,000
経常利益	—	—	2,000
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	1,300

中期的なグループ事業戦略などを総合的に勘案し、適正かつ安定的な配当を実施することを利益配分の基本方針としております。この方針に基づき、当期末の配当金につきましては、前期末に比べて1株当たり2円増配となる、1株当たり24円50銭とさせていただきます。中間配当22円50銭と合わせ、年間配当金は前期比2円増の1株当たり47円となります。

今回増配に踏み切ることができたのは、中期経営計画で取り組んでいる経営改革が順調に進んでおり、今後も継続的に一定の利益水準を確保できるという見通しが立ったためです。計画2年目を終えた段階で、すでに経常利益の水準は最終年度の目標である20億円を突破しました。

しかし、売上高が最終年度の目標に届かない可能性があることに対してはやや不満を持っています。たし

かに利益を出すことは企業にとって非常に大切なことですが、「売上高が減っても利益が出ていれば良い」というのは大きな間違いだと思っています。やはり利益の源泉となるのは売上高であり、これを常に伸ばして続けていこうとする努力こそが、企業が成長し、永続していくためには不可欠だと考えています。今の当社グループには良い商材がたくさんあり、売り方次第ではもっともっと売り上げを伸ばすことができたはずですが。これを2年目までの大きな反省点として、最終年度は少しでも売上高を伸ばし、目標としていた数値に近づけるよう最後まで最善を尽くしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

新任役員のご紹介

2019年1月30日付で就任いたしました新しい役員をご紹介します。

氏名 佐田 淳きだ あつし
役職名 取締役機械本部副本部長（生産担当）兼サガミ工場長
生年月日 1964年10月30日
今後の抱負 お客さまが感動する魅力的な製品の開発と、これら製品を合理的に生み出すための「ものづくり力」の強化に注力することで、当社業績向上に邁進していく所存です。



氏名 蓮沼 辰夫はすぬま たつお
役職名 取締役（監査等委員）
生年月日 1952年9月8日
今後の抱負 企業を取り巻く環境の変化などに対応して適切に職務を遂行し、会社の持続的な発展と企業価値向上に向けた活動に貢献するとともに、社会的な信頼に応えるよう努める所存です。

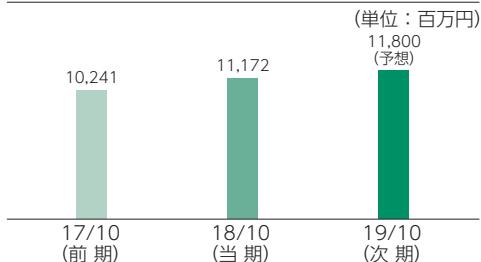


機械事業



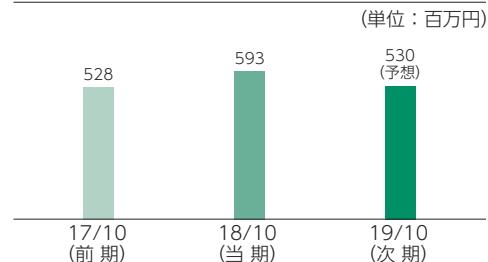
常務取締役
機械本部長 本間義人

売上高 11,172 百万円



営業利益

593 百万円

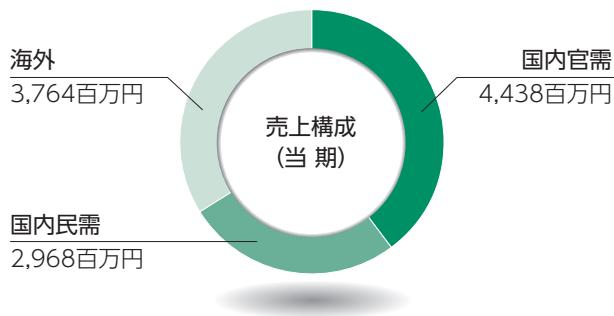


業績

2018年10月期の売上高は前期比9.1%増の11,172百万円となりました。

国内民需・官需、海外ともに増収となりました。分野別に見ますと、国内官需分野では、装置・工事が減収となったものの、大都市下水処理場向けの大型の低動力型高効率遠心分離機および下水処理場設備改良・補修工事が好調だったことに加え、地方都市においても低動力型

高効率遠心分離機や回転加圧脱水機、し尿・ゴミ処理場向けに遠心濃縮機、遠心脱水機等が堅調だったことから前期比7.3%の増収となりました。国内民需分野では、半導体関連向けの装置・工事および部品・修理の伸びが大きく、化学工業、エネルギー、食品関連の部品・修理なども堅調だったため、前期比16.6%の大幅な増収となりました。一方、海外分野では、機械については中国での化学工業向け遠心分離機が好調であったことと、アジア地域での水処理設備向けや食品関連、欧州での化学工業向けなどが伸長しました。また、装置・工事については半導体向け装置や炭化装置などの販売があり前期比5.6%の増収となりました。営業利益につきましても、それぞれの分野での増収により前期比12.4%増益の593百万円となりました。



次期の展望

2019年10月期の売上高は当期を5.6%上回る11,800百万円、営業利益は同10.7%下回る530百万円を見込んでいます。

国内官需分野では、当期においては好調であった部品・修理が反動で減収する見込みですが機械、装置・工事はほぼ当期並みと予想しています。地方都市の下水処理場、ゴミ・し尿処理場向け遠心分離機と、その他破砕機などの周辺機器の受注が増加する見込みです。国内民需は化学工業および食品向けの機械の受注増を見込んでおり、特に食品分野ではディスク型遠心分離機の新規受注に注力します。装置・工事については、半導体関連の減少により減収を予想しています。海外分野では、機械については化学工業向けで中国、欧州向けの受注残を抱えており、その他アジア地域においても、水処理関連や、医薬・食品向けなどの受注を計画しています。部品・修理については、中東向けの販売が大きく減少するものの、北南米、アジア地域での受注増により全体では増収を予想しております。海外においては、Tomoe Engineering USA, Inc.、巴栄工業機械(上海)有限公司の拡販、化学工業需要の増加による中国向け遠心分離機が好調に受注出来る見通しで、その他アジア地域においても食品、化学工業向けに遠心分離機、欧州では樹脂向け遠心分離機の増設による受注、北南米では医薬・食品、化学工業向け遠心分離機の受注を見込んでいます。また部品・修理販売については大幅な増収を見込んでおります。

次期業績予想

売上高 11,800百万円 (当期比 5.6%増↑)

営業利益 530百万円 (当期比 10.7%減↓)

中期展望

2019年10月期は第11回中期経営計画の最終年度となります。機械事業としては、海外ビジネスの新たな展開と国内販売の拡大および生産体制の改革に取り組んでまいります。海外ビジネスの新たな展開としてアジア地域における排水処理分野や、Tomoe Engineering USA, Inc.を軸とした北南米の市場開拓、中国においては巴栄工業機械(上海)有限公司を軸とした市場の開拓を、特にメンテナンス拠点を持った強みを生かして展開してまいります。国内販売については、まず官需向けは低動力型高効率遠心分離機の一層の拡販と高機能付回転加圧脱水機の市場投入、民需向けはディスク型遠心分離機の市場投入など新たな分野への展開をいたします。生産体制の改革については、技術力の向上と生産性向上、設計製作の見直しと合理化によるコストダウンを推進してまいります。営業部門、生産部門が一体となり機械事業の業績向上に努め収益の拡大を図ります。



ディスク型遠心分離機

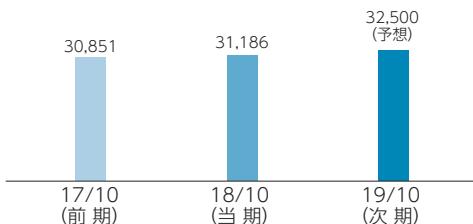
化学品事業



常務取締役
化学品本部長 玉井章友

売上高 31,186 百万円

(単位：百万円)



営業利益 1,784 百万円

(単位：百万円)



業績

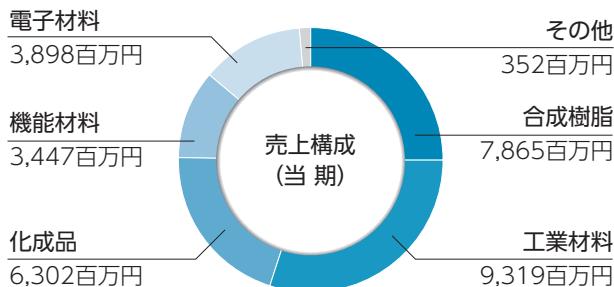
2018年10月期の売上高は、前期比1.1%増の31,186百万円となりました。

化学業界は好調に推移しており、これを反映して国内外での商材販売が引き続き好調に推移したことにより当事業におきましても増収となりました。

分野別に見ますと、工業材料関連は自動車や住宅・建築用途向けを中心とした鉱産物や金属向け添加剤の販売に

加え、三国間貿易が好調であったことから前期比12.0%の増収となりました。化成品関連はインキ・塗料関連向け紫外線硬化樹脂やその他の有機原材料が好調に推移しましたが、ウレタン関連材料の販売が減少したことから前期比0.8%の増収にとどまりました。機能材料関連は半導体製造装置用セラミック部品、パワー半導体用放熱材料などは好調でしたが、半導体装置の販売が減少したため前期比2.8%の減収となりました。電子材料関連は半導体後工程に使用されるツール類や搬送材は好調に推移したもののワイヤ・ボンディング装置の販売が減少し、前期比4.0%の減収となりました。合成樹脂関連は巴工業(香港)有限公司経由の海外ユーザー向け汎用樹脂販売が好調に推移したものの、国内での汎用樹脂販売の減少により前期比5.4%の減収となりました。

営業利益につきましては国内では高収益商材の販売が増加したことおよび経費節減に加えて、巴工業(香港)有限公司、巴恵貿易(深圳)有限公司、TOMOE Trading(Thailand)



Co.,Ltd.など海外現地法人の販売増による貢献もあり前期比6.8%増の1,784百万円となりました。

次期の展望

2019年10月期の売上高は、既存商材の販売増や新規商材の拡販および海外向け輸出や三国間貿易の伸長を計画し、当期比4.2%増の32,500百万円、営業利益については当期比0.8%減の1,770百万円を見込みます。

昨年までは国内外の化学業界は全体では底堅く推移していましたが、ここに来て日本経済の成長率はピークを過ぎ低下基調に入ったものと考えております。足元では原材料価格の高騰や物流コストの上昇、中国の環境規制強化、米中貿易摩擦など様々なリスクが潜んでおり、中国環境規制による商材の生産停止、米国の保護主義を発端とする米中貿易摩擦による影響は既に当事業におきましても影響を受け始めており、日系企業へのインパクトは想像以上と予想しております。化学品事業としましては、厳しい環境により影響を受ける商材も出てくると想定しますが、既存商材の維持・拡大と前期新設した開発部を核とした新規商材の開拓・拡販を行い底上げを図ってまいります。一方、海外におきましても巴工業(香港)有限公司、巴恵貿易(深圳)有限公司による中国での取扱い商材の拡大、星際塑料(深圳)有限公司におけるコンパウンド事業の生産数量の増加、TOMOE Trading(Thailand) Co.,Ltd.を拠点とする東南アジア諸国への拡販などにより底上げを図っていくことで、事業全体の業績拡大に努めてまいります。

次期業績予想

売上高 32,500百万円 (当期比 4.2%増↑)

営業利益 1,770百万円 (当期比 0.8%減↓)

中期展望

【玉】 内産業の需要拡大は、消費税増税による景気対策を含め、少なからずあるものと予測しますが、その後の景気動向の行方が気になるところです。また、米国の保護主義など地産地消ビジネスについても今後どのような形で当事業に影響を及ぼすものなのか、注視しながら的確な判断をしていく必要があります。このような中、化学品事業では重要課題である海外ビジネスの拡大に向けて、更に注力していくことが必要と考えています。TOMOE Trading(Thailand) Co.,Ltd.を中心とした東南アジア市場開発に加え、中国拠点のビジネスの充実を図り、各地域に密着したビジネスを展開してまいります。また、新設した開発部では今後成長する分野へ人材投入を行うことと併せ、国内に限らず、これまで関係を構築してきた東欧、ロシア、アフリカ等の新規市場拡大とともに海外での新しいサプライヤー探索や取引先開拓に注力していきます。

国内販売については、商品グループ毎に将来に繋がる新たな案件開拓を既にスタートさせています。案件開拓が芽を出すのは時間が掛かる場合もありますが、それまでは既存商材の着実な販売で足元を固めつつ、各種投資も併せて事業の拡大を図ってまいります。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 (17/10)	当期末 (18/10)	増減額
資産の部			
流動資産	27,648	29,454	1,805
固定資産	8,932	8,491	△440
有形固定資産	5,163	5,042	△120
無形固定資産	186	109	△76
投資その他の資産	3,582	3,339	△243
資産合計	36,580	37,946	1,365
負債の部			
流動負債	8,193	8,790	597
固定負債	1,378	1,279	△99
負債合計	9,572	10,069	497
純資産の部			
株主資本	26,070	27,134	1,064
資本金	1,061	1,061	－
資本剰余金	1,483	1,483	－
利益剰余金	23,889	24,953	1,064
自己株式	△363	△363	△0
その他の包括利益累計額	938	741	△196
その他有価証券 評価差額金	551	433	△117
繰延ヘッジ損益	2	0	△2
為替換算調整勘定	214	186	△28
退職給付に係る調整累計額	170	122	△47
純資産合計	27,008	27,876	867
負債及び純資産合計	36,580	37,946	1,365

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (16/11~17/10)	当期 (17/11~18/10)	増減額
売上高	41,093	42,358	1,265
売上原価	32,216	33,122	906
売上総利益	8,876	9,235	358
販売費及び一般管理費	6,678	6,858	179
営業利益	2,198	2,377	179
営業外収益	66	80	14
営業外費用	45	122	77
経常利益	2,219	2,335	116
特別利益	8	－	△8
特別損失	－	24	24
税金等調整前当期純利益	2,227	2,311	83
法人税等	724	798	73
当期純利益	1,503	1,513	9
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,503	1,513	9

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (16/11~17/10)	当期 (17/11~18/10)	増減額
当期純利益	1,503	1,513	9
その他の包括利益	779	△196	△975
その他有価証券 評価差額金	251	△117	△369
繰延ヘッジ損益	20	△2	△22
為替換算調整勘定	124	△28	△152
退職給付に係る調整額	382	△47	△430
包括利益	2,282	1,316	△965
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	2,282	1,316	△965

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (16/11~17/10)	当期 (17/11~18/10)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	587	2,191	1,604
投資活動によるキャッシュ・フロー	△392	△281	111
財務活動によるキャッシュ・フロー	△449	△449	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	91	0	△91
現金及び現金同等物の増減額	△162	1,460	1,622
現金及び現金同等物の期首残高	8,056	7,893	△163
現金及び現金同等物の当期末残高	7,893	9,354	1,460

ホームページのご紹介

当社ではホームページを重要な情報発信源のひとつとして認識しており、タイムリーな情報提供に努めております。是非ご活用ください。



URL <https://www.tomo-e.co.jp>

巴工業

検索

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当期 (17/11~18/10)	株主資本					その他の包括利益累計額						純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
2017年11月1日残高	1,061	1,483	23,889	△363	26,070	551	2	214	170	938	27,008	
当期変動額												
剰余金の配当			△449		△449						△449	
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,513		1,513						1,513	
自己株式の取得				△0	△0						△0	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△117	△2	△28	△47	△196	△196	
当期変動額合計	—	—	1,064	△0	1,064	△117	△2	△28	△47	△196	867	
2018年10月31日現在	1,061	1,483	24,953	△363	27,134	433	0	186	122	741	27,876	

会社概要

商号	巴工業株式会社
本社所在地	東京都品川区北品川五丁目5番15号
設立	1941年5月29日
資本金	10億6,121万円
従業員数	715名（連結）、387名（単体）
主な事業内容	<p>機械事業 遠心分離機はじめ各種分離機および応用装置・関連機器の製造・販売ならびに一般機器・装置類の販売</p> <p>化学品事業 合成樹脂、化成品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびにこれらの関連製品・加工品の輸出入および販売</p>
ホームページ	https://www.tomo-e.co.jp

役員一覧

2019年1月30日現在

代表取締役社長	山本 仁
常務取締役	本間 義人
	深沢 正義
	玉井 章友
取締役	篠田 彰鎮
	中村 政彦
	矢倉 敏明
	伊藤 勝彦
	東 徹行
	佐田 淳
取締役（監査等委員）	松本 光央
	村瀬 俊晴（社外取締役）
	中村 誠（社外取締役）
	蓮沼 辰夫（社外取締役）

グループネットワーク

- 機械事業
- 化学品事業

昆山事務所
巴栄工業機械（上海）有限公司

星際塑料（深圳）有限公司
巴惠貿易（深圳）有限公司

TOMOE Trading (Thailand) Co.,Ltd.

巴工業（香港）有限公司
星際化工有限公司

ジャカルタ事務所

ソウル支店

巴工業株式会社本社
大阪支店
札幌営業所
仙台営業所
名古屋営業所
福岡営業所
サガミ工場
湘南工場

Tomoe Engineering USA, Inc.

巴機械サービス株式会社
巴マシナリー株式会社
巴物流株式会社
巴ワイン・アンド・スピリッツ株式会社

株式情報

発行可能株式総数	24,550,000株
発行済株式の総数	10,533,200株
株主数	12,246名

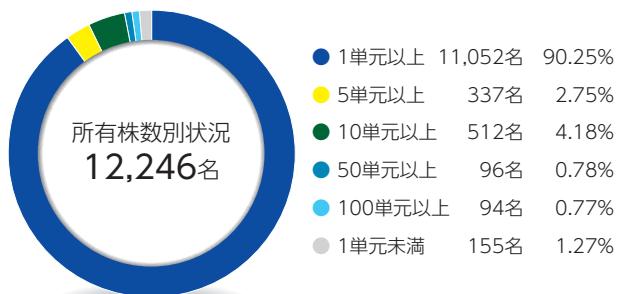
大株主

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数(自己 株式を除く)に対する 所有株式数の割合(%)
巴工業取引先持株会	537	5.38
(株)光通信	470	4.71
佐良直美	406	4.07
野田眞利子	397	3.97
(株)みずほ銀行	392	3.93
山口温子	314	3.14
巴工業従業員持株会	269	2.69
(有)巴企画	245	2.46
竹内啓子	191	1.92
(株)三井住友銀行	180	1.80

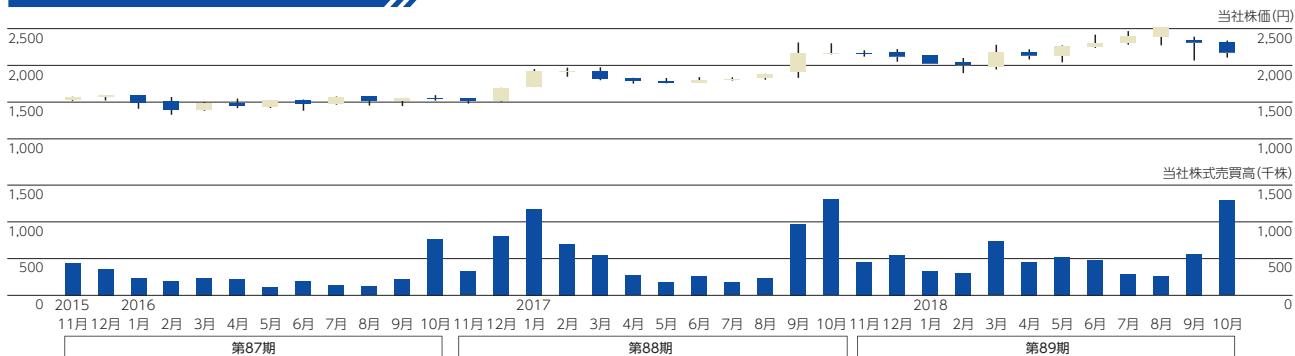
(注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 上記のほか当社所有の自己株式554千株があります。

株式分布状況

● 個人・その他	6,161,317株	58.50%
● 証券会社	76,675株	0.73%
● 金融機関	1,838,300株	17.45%
● その他の国内法人	1,243,983株	11.81%
● 外国法人等	658,064株	6.25%
● 自己株式	554,861株	5.26%



株価チャート



株主メモ

決算期	毎年10月31日
証券コード	6309
1単元の株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年10月31日 期末配当 毎年10月31日 中間配当 毎年 4月30日
公告方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載アドレス	https://www.tomo-e.co.jp
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)

株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的として株主優待制度を設けております。



対象となる株主様

毎年10月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上保有の株主様

優待内容

ワイン（当社関連会社取扱商品）1本を贈呈

贈呈の時期

毎年12月下旬に送付



巴工業株式会社

〒141-0001

東京都品川区北品川五丁目5番15号

URL <https://www.tomo-e.co.jp>

本報告書には、業績予想等に関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。



UD FONT